

インドネシア：2会合連続で政策金利を5.75%に据え置き 通貨ルピアの安定と経済成長の両立をめざす

インドネシア中央銀行（BI）は8月19日、政策金利を2会合連続で5.75%に据え置くことを決定しました。前回の発表（7月22日）直後に、前総裁のペリー・ワルジョ氏が辞任しました。上級副総裁だったデストリ・ダマヤンティ氏が総裁に昇格して初めての金融政策会合でしたが、市場の事前予想通り、政策金利は据え置きとなりました。BIの動向、市場の反応および今後の見通しについて解説いたします。

➤ 据え置きは成長重視の経済政策とも合致

金融政策の概要：

- BIは8月19日に終了した金融政策決定会合で、政策金利である7日物リバースレポ金利を5.75%に据え置くことを決定しました。中東での紛争が継続し、世界的な市場変動が懸念される中、BIは前総裁ワルジョ氏のもとで2026年に入り、合計1.0%の利上げを実施し、通貨ルピアの安定とインフレの抑制を図ってきました。
- BIは、金融引き締めを一旦停止し、為替ヘッジや非ドル決済の優遇策など資金流入を促す為替関連のインセンティブ政策によってルピアの安定化を図ることを引き続き目指す姿勢を示しました。これは経済成長を重視するプラボウォ政権にとっても整合性がとれていると見られます。

インフレ動向：

2026年7月のインフレ率は前年同月比+2.88%と前月の+3.34%から低下し、BIの目標レンジ（2.5%±1%）内に収まりました。BIは、2026年および2027年を通じてインフレ率が目標レンジ内に収れんするよう、金融政策ミックスによる対応の強化を継続する方針です。この対応には、輸入インフレへの影響を最小限に抑えるための為替レートの安定化策も含まれています。

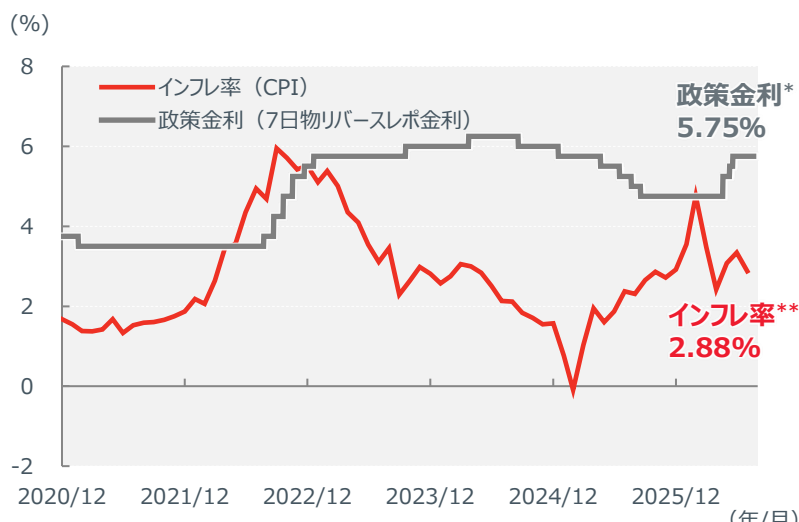
経済成長見通し：

- インドネシアの経済成長率は、2026年第1四半期（1-3月期）の前年同期比+5.61%から、第2四半期（4-6月期）は+5.29%となりました。BIは、2026年の実質GDP成長率について、4.9～5.7%のレンジで推移するとの従来の見通しを据え置き、堅調な経済成長を見込んでいます。

政策金利と インフレ率

政策金利*とインフレ率**の推移

（2020年12月31日～2026年8月19日、日次）



出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

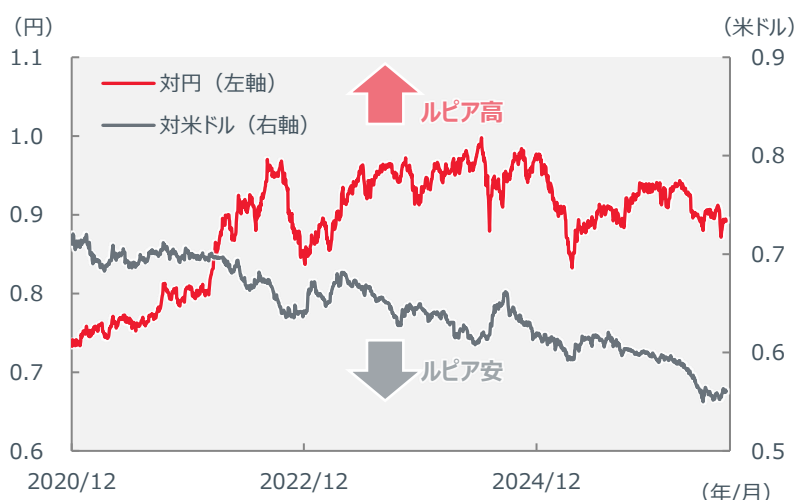
* 7日物リバースレポ金利。

** 消費者物価指数（CPI）上昇率。前年同月比。2026年7月まで。

為替

インドネシアルピア（対円、対米ドル）の推移

（2020年12月31日～2026年8月19日、日次）



出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

※ 対円は100ルピア、対米ドルは10,000ルピア当たりの推移。

○この資料の最終ページにご留意いただきたい事項を記載しております。必ずご確認ください。

英国ブルーデンシャル社は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルデンシャル・ファイナンシャル社、および英国のM&G社の子会社であるブルーデンシャル・アシュアランス社とは関係がありません。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商） 第379号／加入協会 一般社団法人資産運用業協会

260820(02)

(1/2)

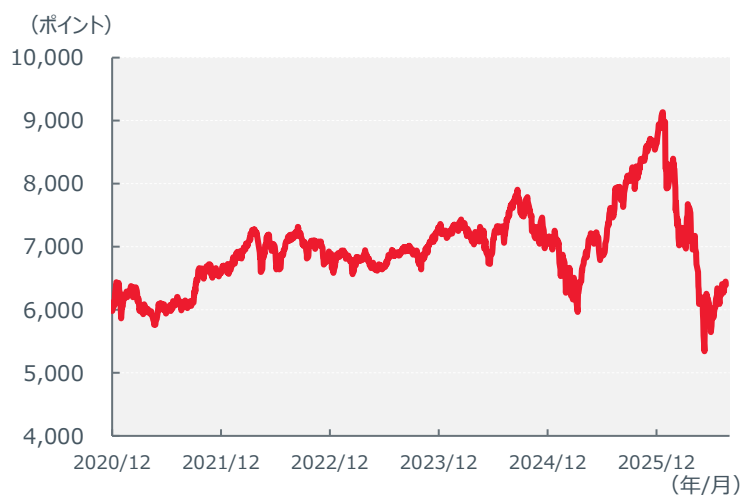
➤ 市場の反応と今後の見通し

- 8月19日、2会合連続で政策金利を5.75%に据え置きした事などを背景に、ルピアは対米ドルで前日比0.13%上昇、対円で0.26%下落しました。インドネシア株式市場（ジャカルタ総合指数）は前日比0.86%下落、債券市場では10年国債利回りが前日比-5.7bps（-0.057%）となりました。
- 前総裁のワルジョ氏の辞任直後には一時的にルピア、株式、債券が下落するという局面もありました。ダマヤンティ新総裁は総裁就任後初の決定会合を無難に乗り切りましたが、中東情勢や米金利動向、貿易収支次第では再びルピア安やインフレ率の上昇が再燃することも懸念されます。BIは今回の金融政策の決定で、持続可能な経済成長を支えつつ安定性を強化する姿勢を鮮明にしました。
- 当社では、今回の決定はルピアおよび現地通貨建て債券市場の双方にとって支援材料と考えています。通貨の安定が引き続き最重要課題である一方、BIが国内の流動性と経済成長を支援する姿勢をより明確に示したことで、追加利上げに踏み切るハードルは以前より高くなったと考えられます。また、BIは短期金利が過度に上昇することを望んでいないことを示唆するとともに、必要に応じて流通市場で国債買入れを限定的に実施する可能性にも言及しました。このため、投資資金の一部はより年限の長いインドネシア国債へ向かうことが期待され、債券市場の安定化につながると考えられます。安定したルピア相場と流動性環境の改善は、短期的な追加引き締め必要性を低下させるとみられます。ただし、世界的な市場変動、インフレ動向、米国の金融政策を巡る不透明感が残る中、BIは引き続き慎重な政策運営を維持すると考えています。

株式

ジャカルタ総合指数の推移

（2020年12月30日～2026年8月19日、日次）

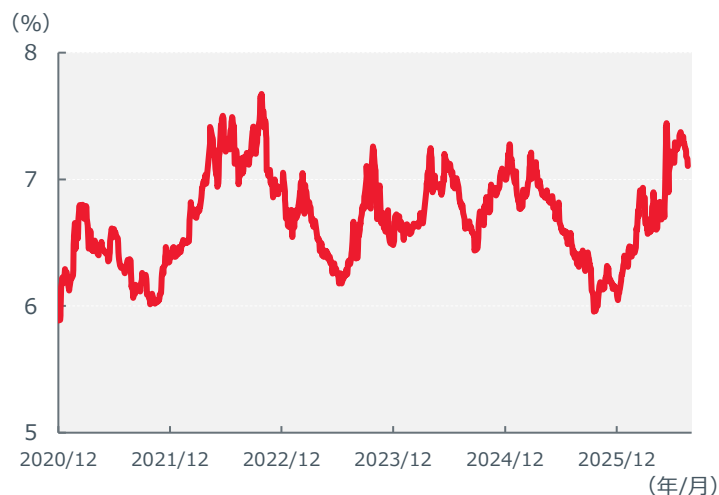


出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。
現地通貨ベース、プライスリターン。

債券

インドネシア10年国債利回りの推移

（2020年12月30日～2026年8月19日、日次）



出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

<当資料に関してご留意いただきたい事項>

○当資料は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社が、情報提供を目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。また、特定の金融商品の勧誘・販売等を目的とした販売用資料ではありません。○当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしもその正確性、完全性を保証するものではありません。○当資料の内容は作成日時点のものであり、当社の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、将来予告なく変更されることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。○当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。○当社による事前の書面による同意無く、本資料の全部またはその一部を複製・転用並びに配布することはご遠慮ください。